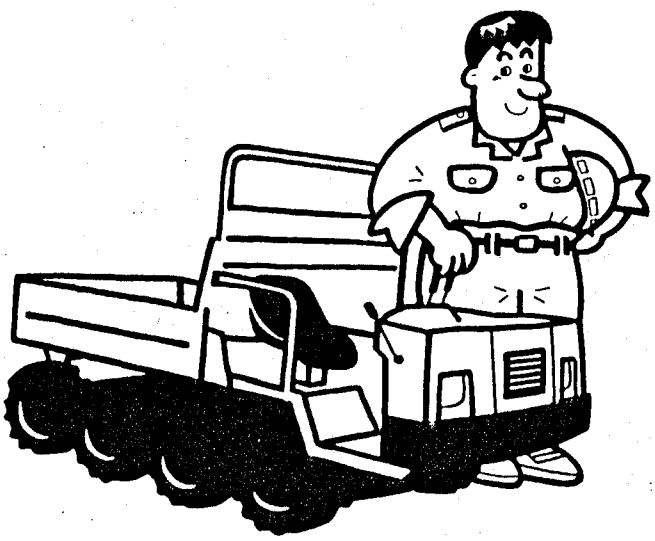
取　扱　説　明　書

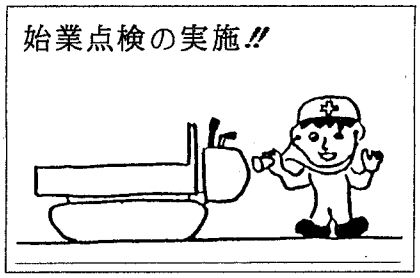
SG603



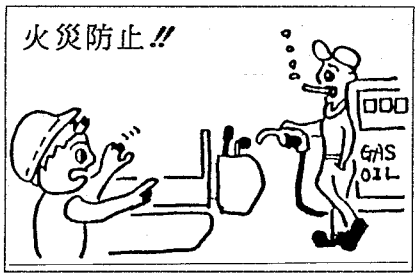
No.3523 6101 001

⚠安全上の注意

安全管理

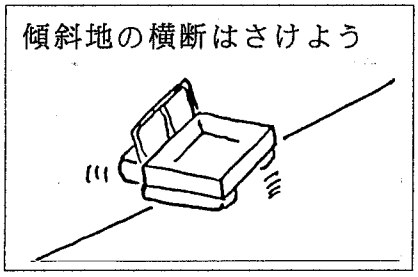


運転の前に始業点検を確実に励行し、異常箇所は直ちに補修してください。

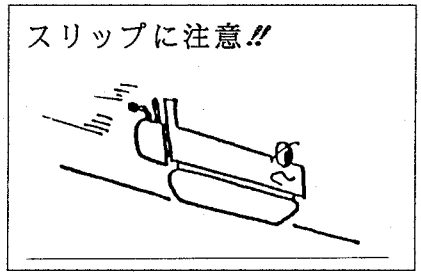


燃料、油脂の取り扱い時、バッテリーの充電中や本機の保管場所には火気を近づけないでください。

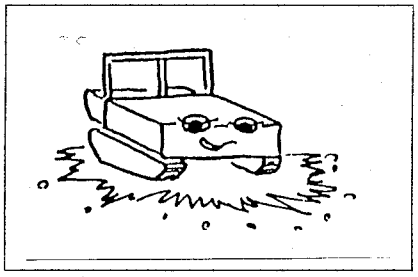
作業中の注意



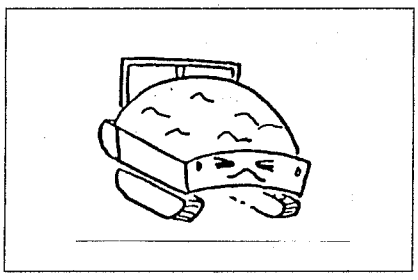
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面をよこぎると危険です。また急傾斜地ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



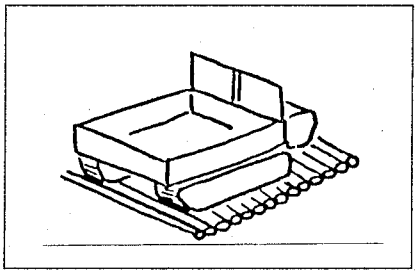
降坂時は変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用してください。



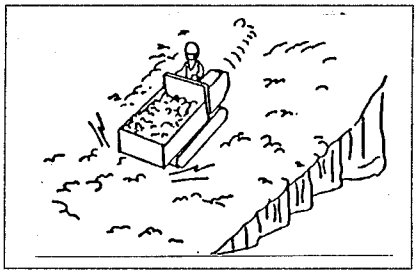
軟弱地盤では、低速で走行し急加速、急旋回および停車はしないでください。



走行速度は、走行時の勾配、路面の状況および荷重に応じた安全速度で走行してください。また過積での走行はしないでください。

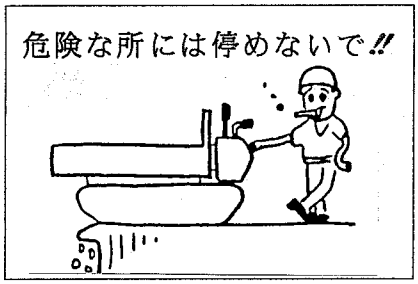


木橋等を渡る時は、本機の自重と積載重量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で静かに通過してください。

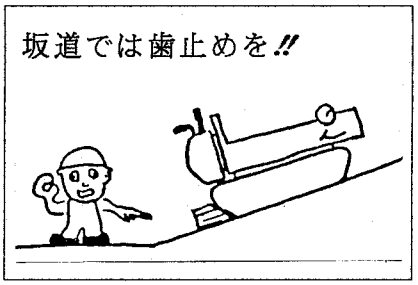


15°～20°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地ではなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は空車状態とし、山側にて運転操作をしてください。

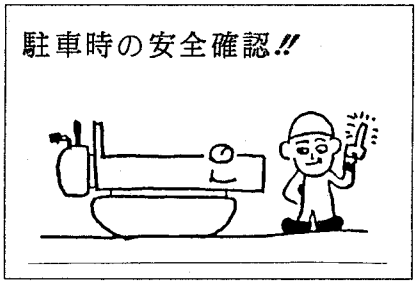
駐停車時の注意



駐停車する場所は足場のよい平坦地に止め危険な場所は避けましょう。

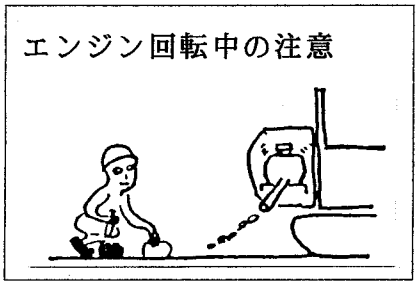


やむなく坂道で駐車する時は歯止めをかけてください。

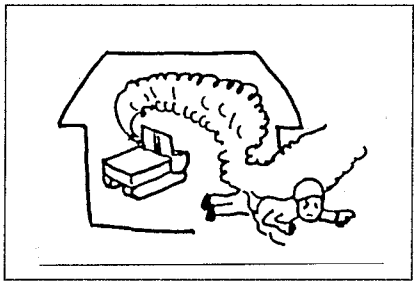


駐車時は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止してキーを忘れずに抜きましょう。
（セルフスタータ式のみ）

点検・整備時の注意



エンジン回転中は整備を行わないでください。



室内でエンジン運転する時は排気ガスによる中毒防止のため換気をよくしてから作業を行ってください。

目　　次

項　　目	頁
サービスと保証について	1
本製品の規制について	1
事業者の皆様へ	1
運転装置の説明	2
各部の名称 ……	2
各部のはたらき ……	2
上手な運転のしかた	3
始動の準備 ……	3
始動のしかた ……	3
運転のしかた ……	6
セーフティレバーについて ……	7
停止のしかた ……	8
ダンプ操作 ……	10
本製品の簡単な手入れと処置	11
給油・給脂・注油 ……	11
ベルトストッパー調整 ……	13
クローラ張り調整 ……	13
走行クラッチ調整 ……	14
駐車ブレーキ調整 ……	14
サイドクラッチ調整 ……	15
前ドアロック調整 ……	15
定期自主点検表	16
バッテリー使用上の注意(セル付き仕様車のみ)	30
格納	30
寒冷時の注意	31
工具袋明細	31
仕様	32

このたびは本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、製品の正しい取り扱い方法と点検整備を説明してあります。
安全な運転および製品の性能を充分発揮させるため、御使用前には必ずお読みください。
なお、仕様変更などによりこの取扱説明書の内容が一部、実機と異なる場合がありますので御了承ください。

⚠ 印は、運転・整備作業時に作業者の安全上、特に重要な部分であり必ず守ってください。

サービスと保証について

本製品には保証書交付申請書がついていますので、必要事項を記入して郵送してください。
なお、御使用中の故障・御不審な点およびサービスに関する御用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業にお気軽に御相談ください。
その際、商品型式と製造番号、搭載エンジンの型式名を併せて御連絡ください。

S G 6 0 3	← 商 品 型 式
製 造 番 号 Product No. ○○○○○○○	← 製 造 番 号
	← 製造メーカー名

本製品の保証期間は購入後６ヶ月間となっています。

注意：「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合および仕様を超えた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

本製品の規制について

本製品は、道路上での運転はできません。
道路上での運転による事故および違反につきましては責任を負いかねます。

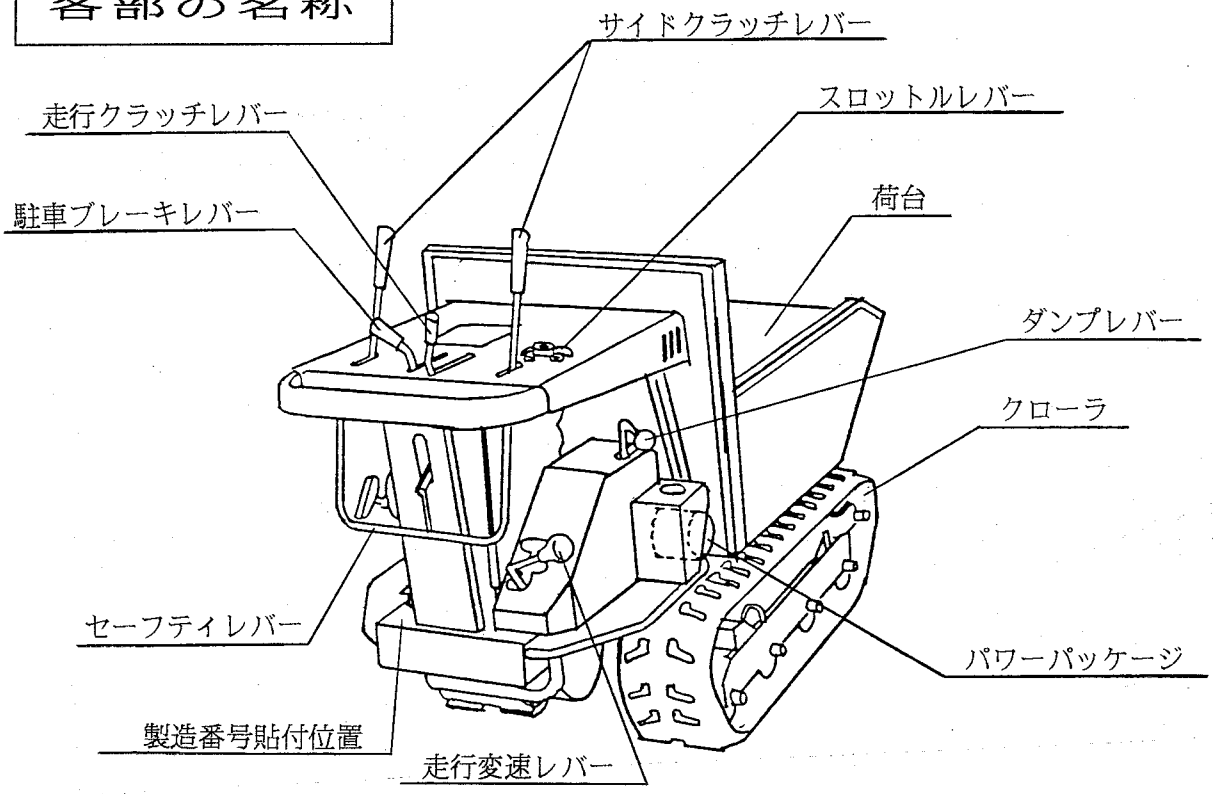
注意：道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます。

事業者の皆様へ

本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当しませんが、安全第一の為にも始業前点検、定期自主検査は必ず行う様、お願いします。

運転装置の説明

各部の名称



※図はバケット仕様を示す。

各部のはたらき

☆スロットルレバー
・エンジン回転数の増減を行います。

☆サイドクラッチレバー
・方向を変える時に使用します。
車体はレバーを引いた側へ曲がります。
また、左右同時にレバーを引くとその場で急停止します。

☆走行クラッチレバー
・エンジンからミッションへの動力の伝達を断続させます。レバーを前方に倒すと「入（発進）」の状態、後方に倒すと「切（停止）」の状態になります。

☆駐車ブレーキレバー
・通常はクラッチレバーと連動して動きますので操作の必要はありません。急な坂道や危険を避ける場合は、レバーを後方に引いてください。途中まで引くとブレーキがかかり、スピードが落ちます。
さらに引くと、クラッチレバーと連動し車体は急停止します。

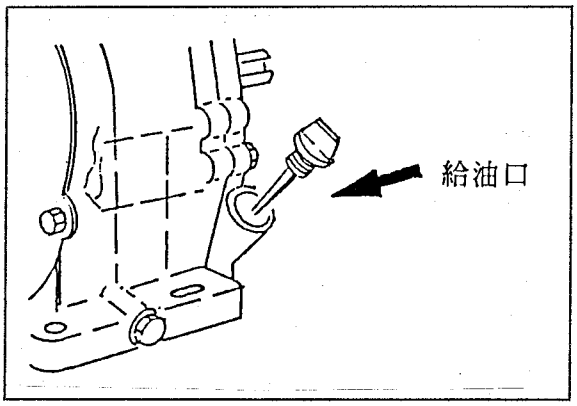
☆走行変速レバー
・走行速度の選択に使用します。
変速は走行クラッチレバーを「切」にして、車体が停止した状態で行ってください。

☆ダンプレバー
・荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。

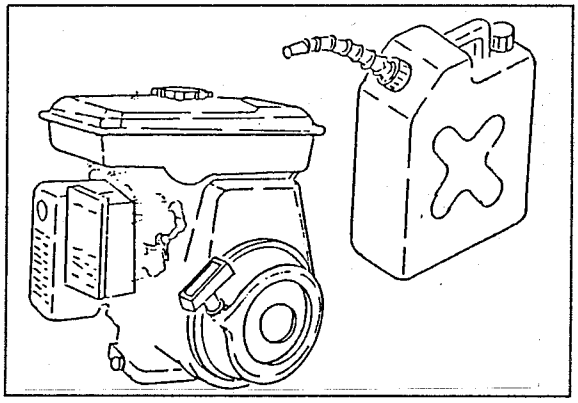
☆セーフティレバー
・後退時に作業者が壁等に挟まれた場合に自動的に走行クラッチレバーが切れ、非常停止します。

上手な運転のしかた

始動の準備



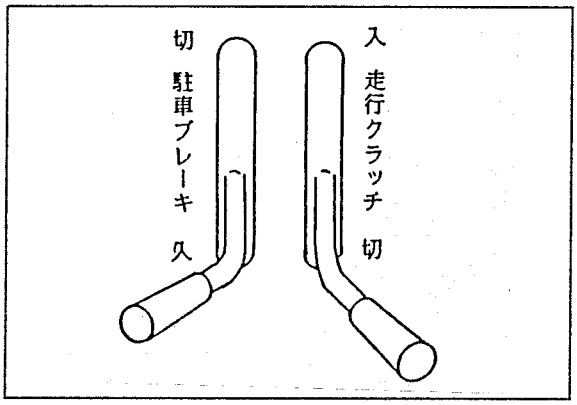
エンジンオイルを確認してください。
オイルの量および種類は、付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。



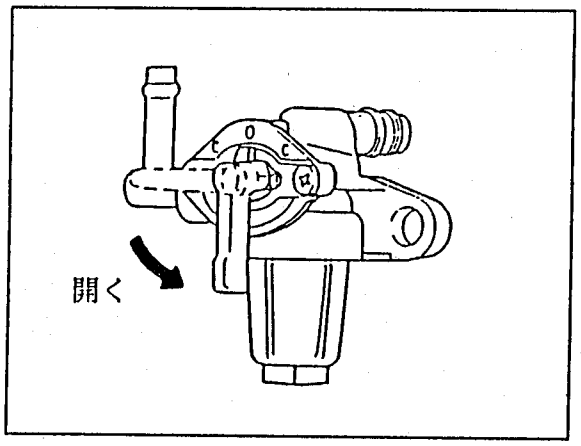
燃料はレギュラーガソリンを入れてください。
燃料タンクの容量については付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。

燃料を入れる時は必ずエンジンを停止させてください。
エンジンが熱い時は燃料をこぼさないよう注意してください。

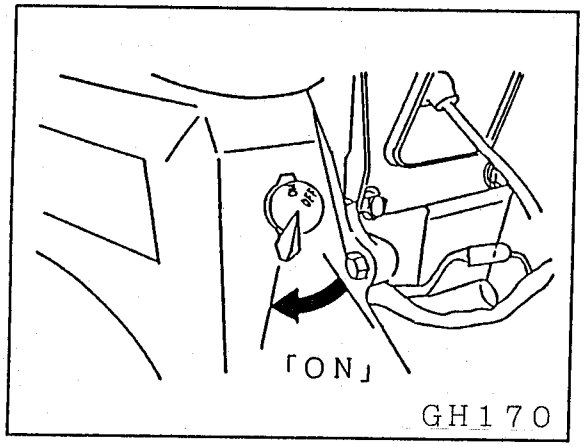
始動のしかた



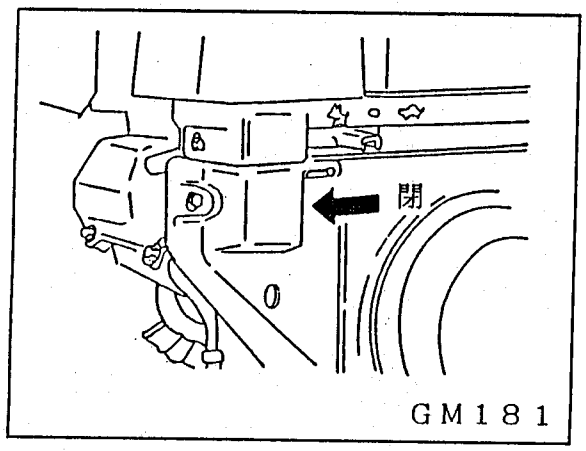
走行クラッチレバーが「切」になっていることを確認します。



燃料コックを開きます。



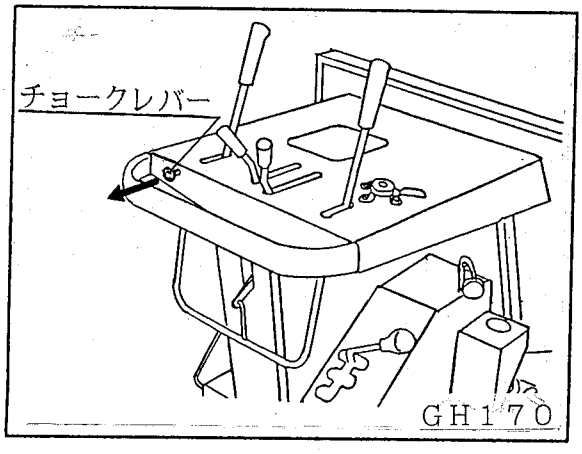
スイッチを「ＯＮ」にします。
（ＧＨ１７０リコイルスタータ式エンジンのみ）

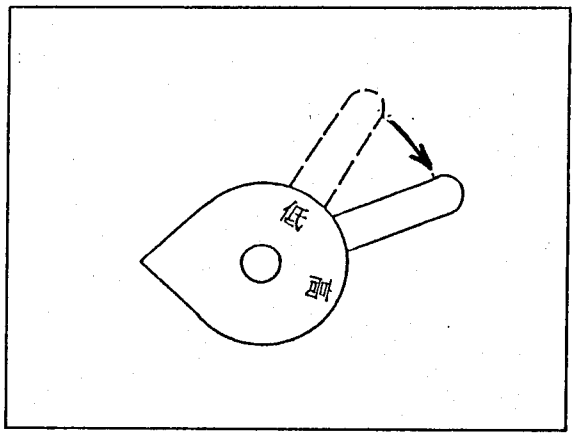


チョークレバーを操作し、チョーク弁を閉じます。

注意

エンジンが暖まっている時はチョークレバーを操作する必要はありません。

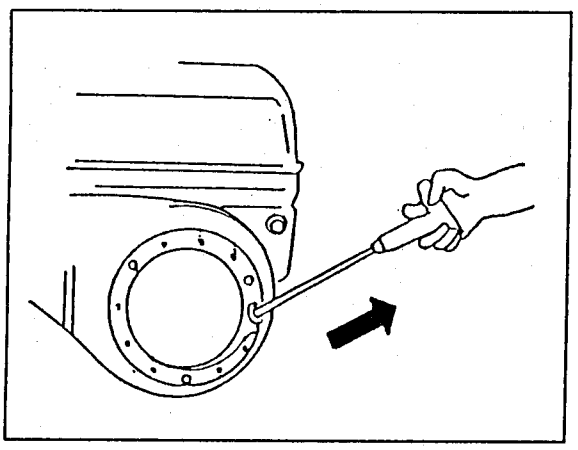




スロットルレバーを「低」と「高」の中間の位置にします。

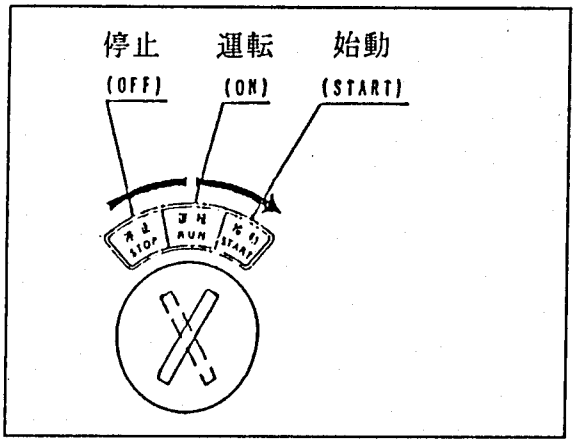
エンジンの始動方法は、エンジンの種類により異なりますので御注意ください。

リコイルスタータ式

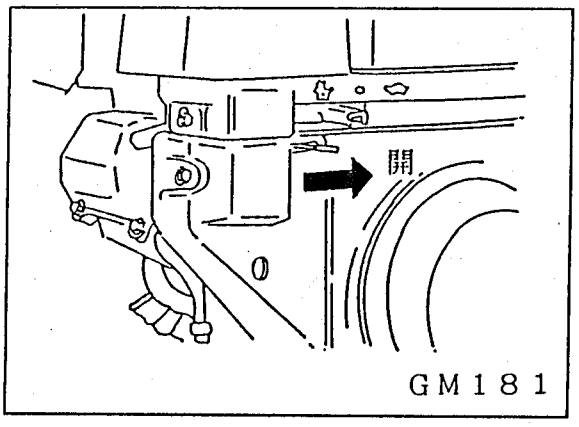


スタータノブを握り勢いよくひっぱります。
エンジンが始動しだしたらスタータノブをゆっくりと元の位置に戻してください。

セルフスタータ式



エンジンキースイッチを「始動」位置に回し始動させます。始動しだしたら直ちにキースイッチから手を放してください。
セルモータを５秒程度回しても始動しなければ１０秒以上休んで再始動してください。

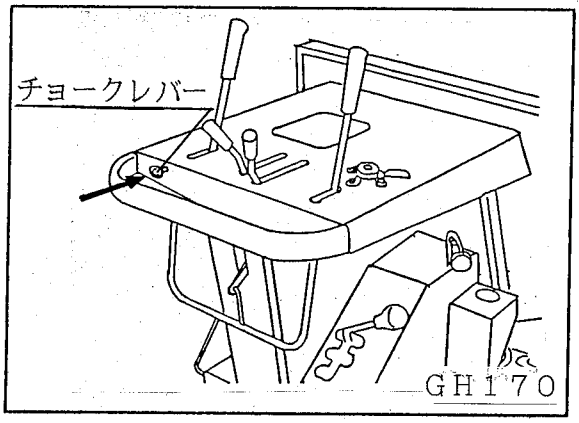


エンジン始動後はチョークレバーを戻してください。

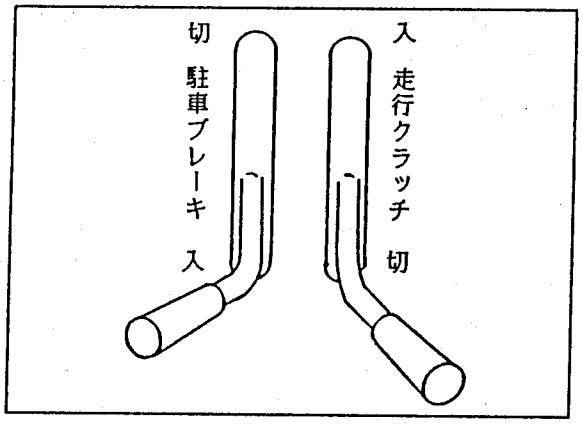
注意

(1)エンジン回転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損することがありますので、絶対にしないでください。

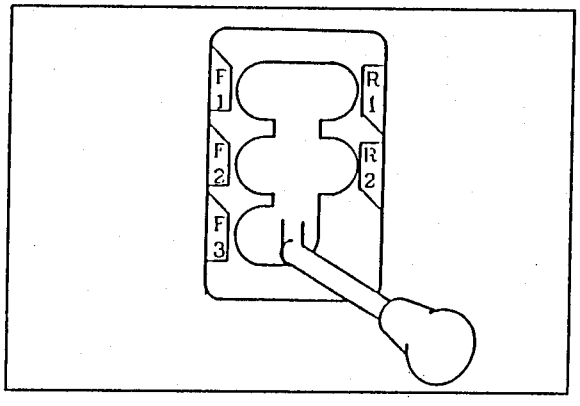
(2)エンジン始動後は、負荷をかけずに１～２分間位低速側で暖気運転してください。



運転のしかた



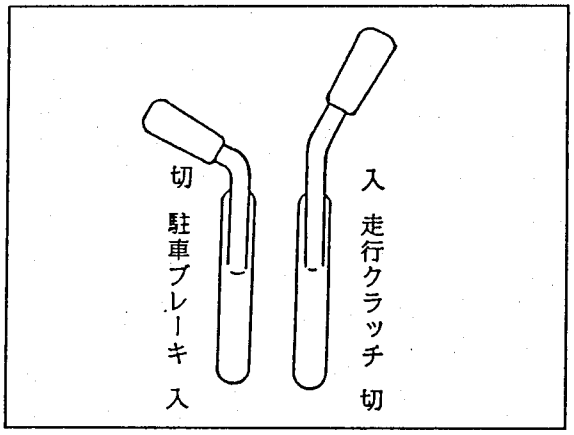
走行クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。



前進　３段　　後退　２段

走行変速レバーを所要変速位置に確実に入れます。

変速（ギヤチェンジ）が不充分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。
ギヤが入りにくい時は無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入」へ少し動かし確実にギヤチェンジを行ってください。



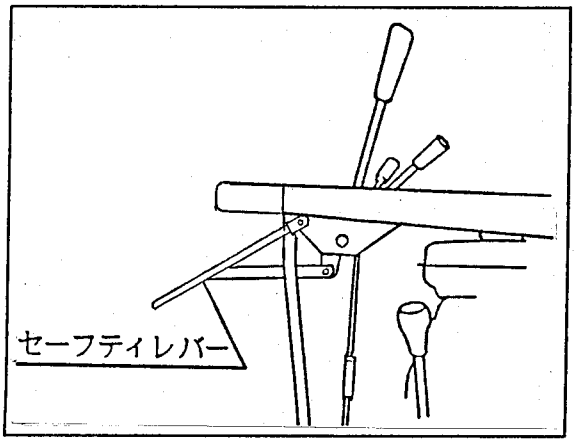
走行クラッチレバーを「入」の位置に徐々に入れると発進します。

旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを手前に引くとその方向へ旋回します。

走行時の注意

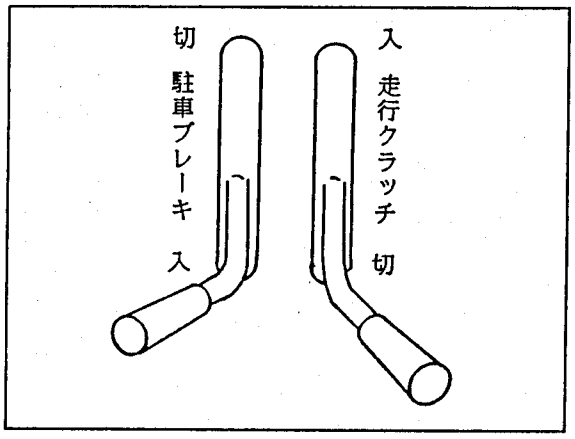
(1)発進する時は、周囲の安全を確認してください。
(2)急激な発進および制動はなるべくお避けください。
(3)急斜面ではサイドクラッチレバーの引き具合で、車体がレバーを引いた方向と逆に挙動することがありますので注意してください。
(4)走行の際に、転倒または転落のおそれがある時は誘導する人を配置し、その人に本機を誘導させ走行の安全を確保してください。
(5)河川敷、砕石地盤上、鉄筋、丸太上での使用はできるだけ避けてください。
ゴムクローラの寿命が著しく短くなります。

セーフティレバーについて



後退時に作業者が壁等に挟まれた場合にセーフティレバーが操作され、クラッチレバーが切れ非常停止します。

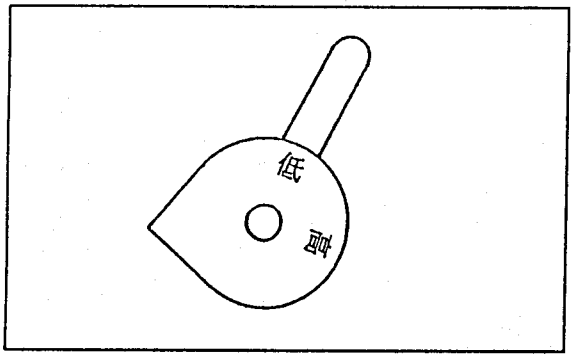
停止のしかた



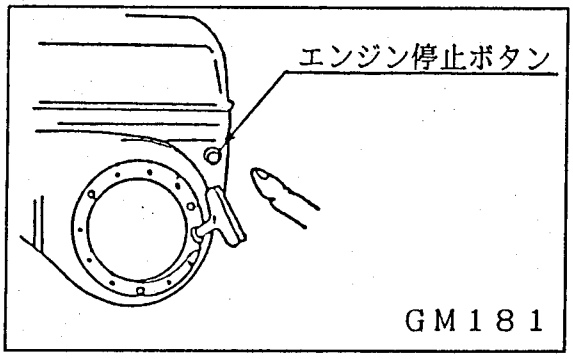
走行クラッチレバーを「切」の位置へ操作し、車体を確実に駐車させます。

傾斜地では車体が浮き上がることがありますので充分注意してください。

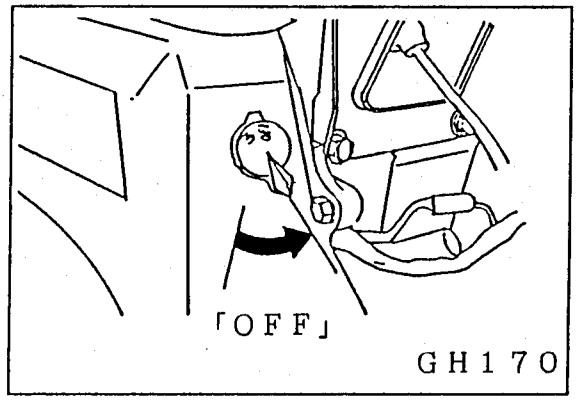
リコイルスタータ式



スロットルレバーを「低」にします。

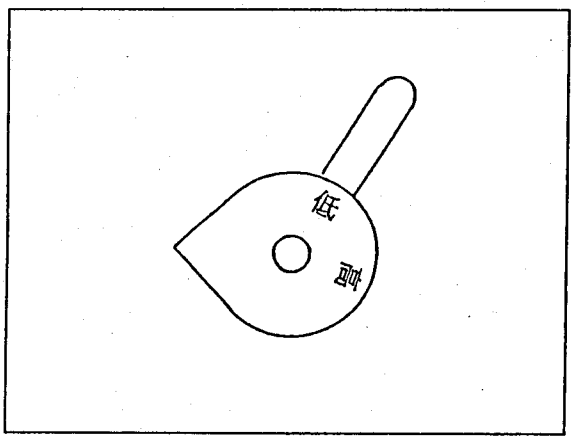


エンジン停止ボタンを押します。

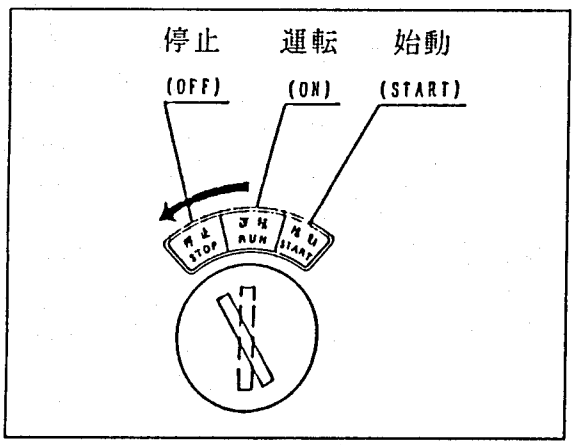


スイッチを「ＯＦＦ」にします。（ＧＨ１７０）
（再始動時はスイッチを「ＯＮ」にします。）

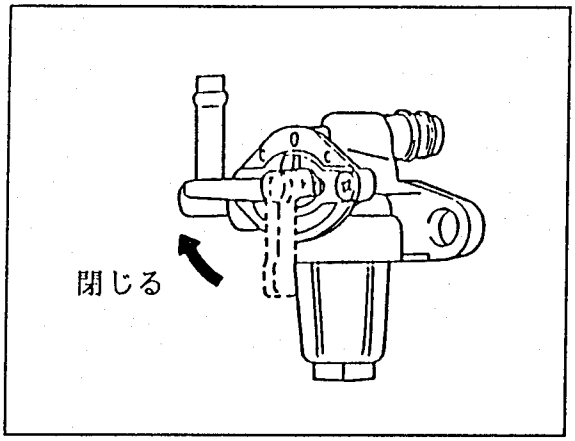
セルフスタータ式



スロットルレバーを「低」にします。

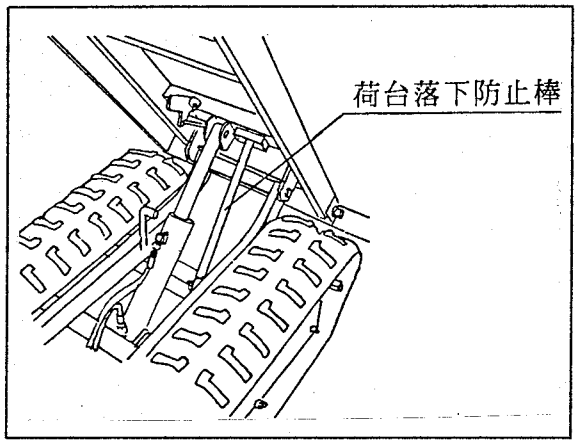


キースイッチを「停止」（またはＯＦＦ）にしキーを抜きます。



最後にリコイルスタータ式およびセルフスタータ式のいずれも燃料コックを閉じます。

ダンプ操作



①エンジンを始動させ、エンジンの回転数を少し上げておきます。
②荷台を上昇させる時は、ダンプレバーをステッカーに示す「上昇」の方へ操作します。
③荷台が上昇の上限まで上がるとリリーフがはたらき異音がしますので、すばやくダンプレバーを中立に戻してください。
④荷台を下降させる時は、油圧レバーをステッカーに示す「下降」の方へ操作します。

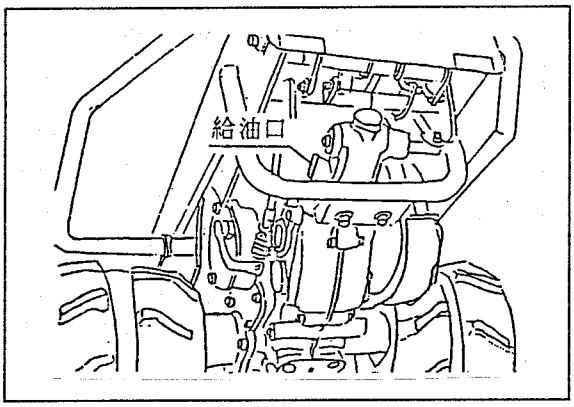
(1)ダンプ操作は必ずエンジンをかけた状態で行ってください。
(2)荷台を上昇したままの作業または荷台下等の点検を行う場合は、危険防止のため荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
(3)荷を積載したまま荷台を下降させる場合は、車体に衝突させないようエンジン回転を低くして荷台をゆっくり下げてください。
(4)傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり非常に危険ですのでお避けください。やむを得ず、傾斜地でのダンプ操作を行う場合は走行部にりん木等を敷き、車体を水平にして御使用ください。

本製品の簡単な手入れと処置

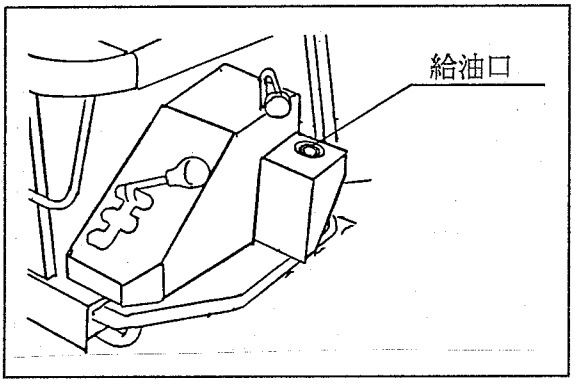
給油・給脂・注油

給油

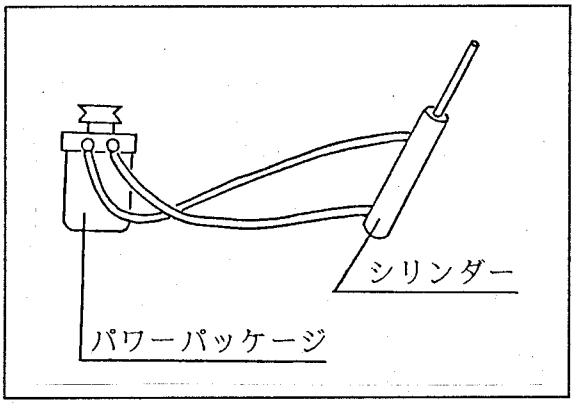
給油がおろそかになりますと、回転が円滑に行われないばかりでなく故障の原因となって機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



☆ミッション
・ギヤオイル　１．５ ℓ
ＡＰＩ：ＧＬ４またはＧＬ５
ＳＡＥ：＃８０

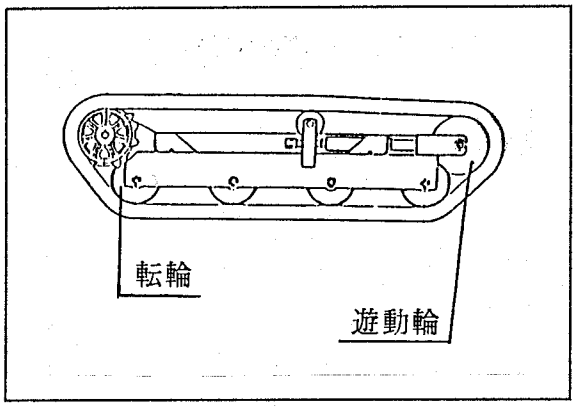


☆パワーパッケージ
・タービン油　０．６ ℓ
（タービン油　２種　ＩＳＯ　ＶＧ３２
または＃８０）



注意
・オイルが減りますとホースおよびシリンダー内に空気が入り、ダンプの上昇が悪くなりますので、１００時間毎にオイルの点検を行ってください。
・エンジンを始動し、荷台を上昇させると最初はエアーが入っていますのでノックしますが、２～３回繰り返しますとよくなります。
・このシリンダーは複動式ですのでホースの接続を間違いますと荷台がダンプしなかったり、故障の原因になりますので御注意ください。

給脂



☆遊動輪、転輪

遊動輪、転輪の給脂は半年に１回行ってください。（購入後、半年間は給脂不要です手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら直ちに給脂を中止してください。エアー式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で充分です。

注意

グリースを入れすぎると故障の原因となりますので御注意ください。

〈給脂箇所〉

①遊動輪、転輪
②荷台フレーム支点
（ステッカー貼付部）
③シリンダー支点

注油

各摺動部には、焼き付きやサビを防止する為に注油を行ってください。

〈注油箇所〉

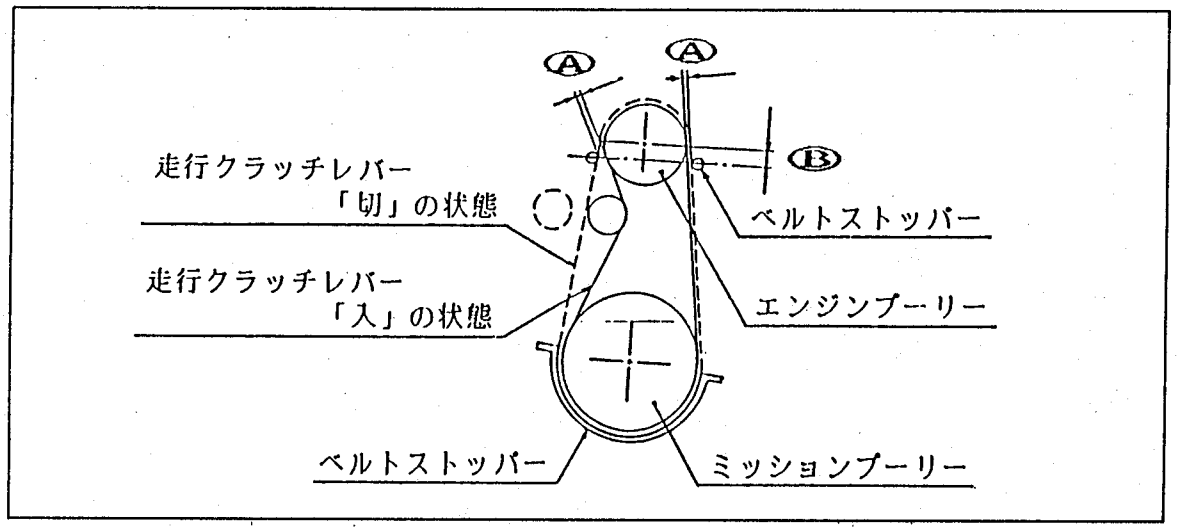
①走行クラッチレバー支点
②駐車ブレーキレバー支点
③走行テンションアーム支点
④各リンク部（ステッカー貼付部）

ベルトストッパー調整

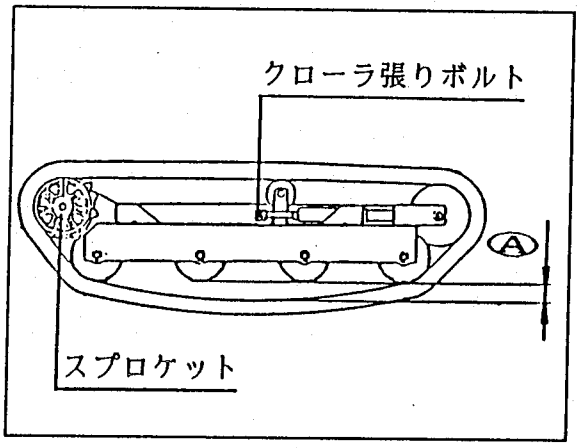
走行クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパーの調整不具合があります。Vベルトの交換等でベルトストッパーを外した場合は、下記要領にて調整してください。

ベルトストッパーは走行クラッチレバーを入れた状態で、Vベルトとベルトストッパーの間隔Ⓐを５㎜程度、Ⓑの間隔を１０～２０㎜程度にセットします。
ミッションプーリー側のベルトストッパーは、ミッションプーリーとの間隔が全周にわたり５㎜程度になるようセットします。

⚠ 必ずエンジンを止めて調整を行ってください。



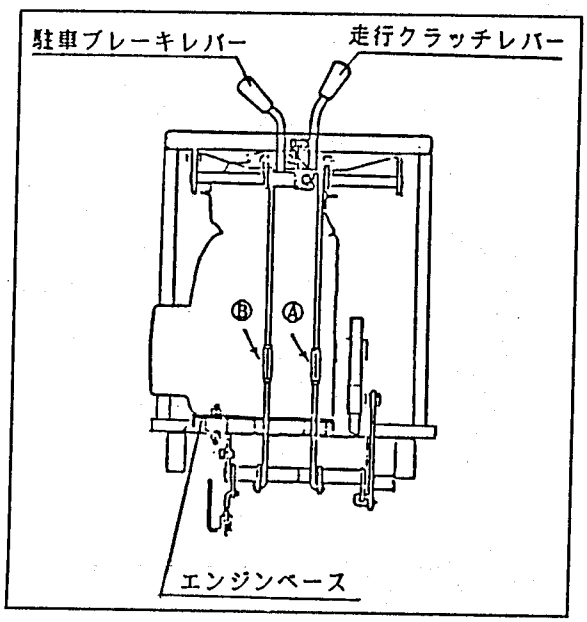
クローラ張り調整



クローラは新しい間に初期延び、スプロケットとのなれによる緩みが生じますので、クローラ張りボルトにて調整してください。
図のように運搬車を地面と平行に浮かした状態でクローラと転輪のすき間Ⓐを１０～１５㎜程度になるようにします。

走行クラッチ調整

走行クラッチの切れが悪い場合、Ｖベルトが滑る場合は下記要領で調整してください。



・走行クラッチの切れが悪い場合

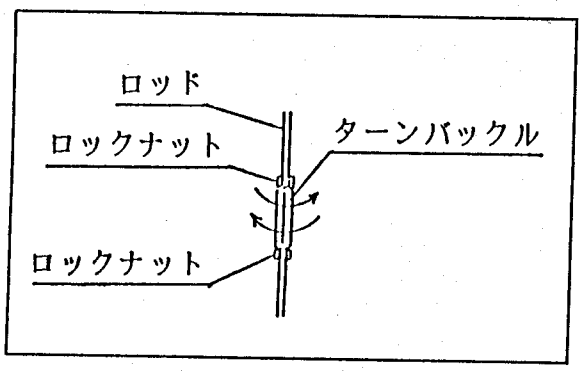
左図Ⓐのターンバックルをロッドが延びる方へ回す。

・Ｖベルトが滑る場合

左図Ⓐのターンバックルをロッドが縮む方へ回す。

注意

長期間使用するとＶベルトに延びが生じ、ターンバックルで調整を行ってもＶベルトが張れない場合があります。この場合、工具袋に入っている『カンザ』をエンジンとエンジンベースの間に敷き込んで調整を行ってください。『カンザ』にて調整ができない場合は、Ｖベルトを交換してください。



ターンバックルはロックナットを緩めて調整してください。調整後は、ロックナットでターンバックルを確実に締め込んでください。

駐車ブレーキ調整

最も重要な調整にブレーキ調整があります。
少しでも甘くなったりした場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。

・ブレーキの効きが悪い場合

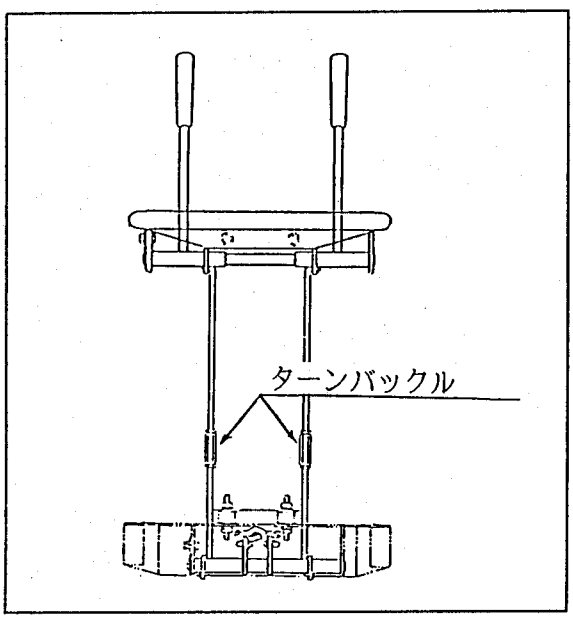
左上図Ⓑのターンバックルをロッドが縮む方へ回す。

注意

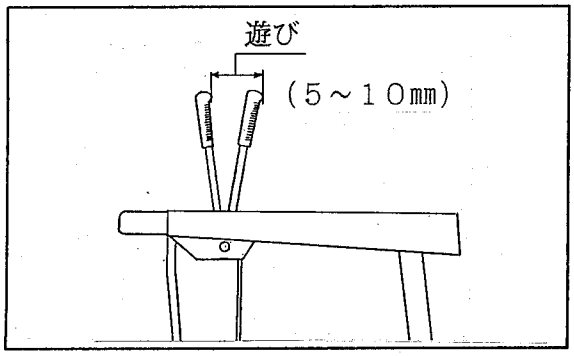
調整後、ブレーキレバーが「切」の状態でブレーキが効いていないことを必ず確認してください。

サイドクラッチ調整

走行中方向転換がスムーズに行えない場合は調整を行ってください。

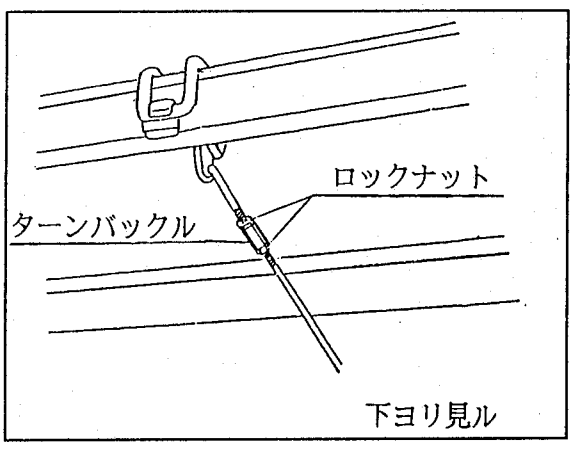


サイドクラッチレバーの遊びはレバー握り部で５～１０㎜程度になるよう、左図のターンバックルにて調整を行ってください。



前ドアロック調整

（箱型荷台のみ）



前ドアが閉まらない場合は、荷台を降ろした状態で前ドアをロックするようターンバックルにて調整を行い、ロックナットにて固定してください。

定期自主点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期自主検査表」を参考に点検を行ってください。

年次検査は１年に１回、月例検査は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行うようにしてください。

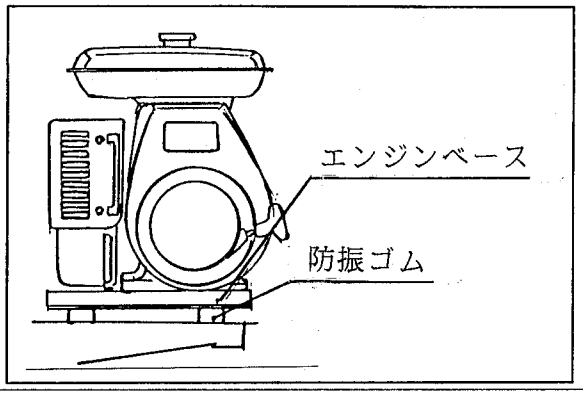
項目			検査内容		検査時期 始業	月例	年次
原動機	本体	始動性	(1)ｴﾝｼﾞﾝのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○
		回転の状態	(1)ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	〔正規の回転数であること〕回転が円滑に続くこと。		○	○
			(2)ｴﾝｼﾞﾝを加速した時、ｽﾛｯﾄﾙﾚﾊﾞｰの引っかかり、ｴﾝｼﾞﾝ停止およびﾉｯｷﾝｸﾞの有無を調べる。	引っかかり、ｴﾝｼﾞﾝ停止またはﾉｯｷﾝｸﾞがないこと。	○	○	○
		排気の状態	(1)ｴﾝｼﾞﾝを充分に暖気した状態で、ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ時から高速回転時までの排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○
			(2)排気管、ﾏﾌﾗｰ等からのｶﾞｽ漏れの有無を調べる。	ｶﾞｽ漏れがないこと。		○	○
		エアクリーナ	(1)ｹｰｽの亀裂、変形およびふた部、接続管等の緩みの有無を調べる。	ｹｰｽの亀裂、変形またはふた、接続管等に緩みがないこと。		○	○
			(2)ｴﾚﾒﾝﾄの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと		○	○
			(3)ｵｲﾙﾊﾞｽ式にあっては油の汚れおよび油量の異常の有無を調べる。	著しい汚れがなく、ﾒｰｶｰの指定する油量であること。		○	○
		締付け	(1)ｼﾘﾝﾀﾞｰﾍｯﾄﾞおよびﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞの締付け部のﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みの有無を調べる。但し、これらの部分からｶﾞｽ漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○

※〔　　〕内は販売店に御相談ください。

処　　置　・　調　　整		参照ページ
タンク内の燃料の不足	給油	3
バッテリーの容量不足 （セルモータの起動力不足）	充電	30
配線の端子の外れまたは断線	接続または交換	－
スロットルワイヤーの折れ、サビ付き	交換	－
スロットルレバーの変形、損傷による作動不良	交換	
黒煙を吐く ・チョークを閉じている ・エアークリーナが目詰まりしている 白煙を吐く ・エンジンオイルが入り過ぎている	全開に 清掃 オイル量調整	－

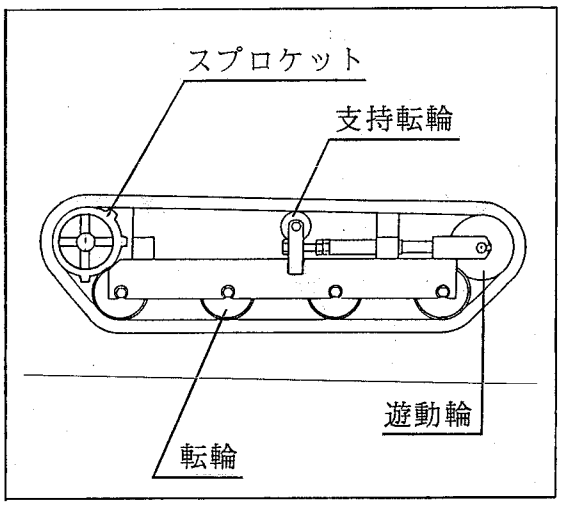
項目			検査内容		検査時期 始業	月例	年次
原動機	本体	弁すき間	(1)弁すき間を調べる。但し、弁すき間の異常による異音がなく、ｴﾝｼﾞﾝが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	〔正規のすき間であること〕			○
		圧縮圧力	(1)圧縮圧力を調べる。但し、ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ時および加速時の回転状態並びに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	〔正規の圧縮圧力であること〕			○
		ｴﾝｼﾞﾝﾏｳﾝﾄ	(1)ｴﾝｼﾞﾝﾍﾞｰｽの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○
			(2)取付けﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○
			(3)防振ｺﾞﾑの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○
	潤滑装置		(1)油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○
			(2)ﾍｯﾄﾞｶﾊﾞｰ、ｵｲﾙﾊﾟﾝ、ﾊﾟｲﾌﾟ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○
	燃料装置		(1)燃料ﾀﾝｸ、ﾎｰｽ、ﾊﾟｲﾌﾟ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れがないこと。	○	○	○
			(2)燃料ﾎｰｽの損傷および老化の有無を調べる。	損傷または老化がないこと。	○	○	○
			(3)燃料ﾌｨﾙﾀｰｴﾚﾒﾝﾄの汚れおよび詰まりの有無を調べる。但し、ｶｰﾄﾘｯｼﾞ式のものは、この検査を省略してもよい。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○
	点火装置		(1)点火ﾌﾟﾗｸﾞの電極およびｶﾞｲｼの汚れ、焼損および破損の有無を調べる。	汚れ、焼損または破損がないこと。		○	○
			(2)点火時期を調べる。	〔正規の値〕であること。			○
	電気装置	充電装置(セル付きのみ)	(1)電流計および充電表示灯によって機能の異常の有無を調べる。	正常に作動すること。			○
		バッテリー(セル付きのみ)	(1)電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲内にあること。		○	○
			(2)端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○
		配線	(1)接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○
			(2)配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○

※〔　　〕内は販売店に御相談ください。

処　　置　　・　　調　　整	参照ページ
エンジンベースの亀裂・変形 交換 ボルト・ナットに緩みがある 増し締め 防振ゴムの劣化・損傷 交換  	－
不足　　給油 汚れが著しい　　交換	3
オイルシール、ガスケット部からの漏れがある　　交換	－
燃料パイプ等の亀裂・損傷　　交換 燃料パイプクランプ部の緩み　　増し締め	－

項目		検査内容		検査時期 始業	月例	年次
動力伝達装置	走行クラッチ	(1)ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ状態でｸﾗｯﾁを切り、異音の有無を調べると共にﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝを変速し、ｸﾗｯﾁの切れ具合を調べる。	異音がなくｸﾗｯﾁが完全に切れること。	○	○	○
		(2)ｸﾗｯﾁを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること	○	○	○
	Ｖベルト	(1)ﾍﾞﾙﾄの張り具合を調べる。	緩みのないこと。	○	○	○
		(2)外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○
	トランスミッション	(1)変速ﾚﾊﾞｰを前進および後退状態にして駆動し、作動状態並びにｷﾞﾔ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ｷﾞﾔ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○
		(2)ｹｰｽ内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○
		(3)油の汚れの有無を調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○
		(4)ｹｰｽ周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○
	サイドクラッチ	(1)走行してｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰを操作した時、異音がなく確実に作動するかを調べる。	異音がなく確実に作動すること。	○	○	○
		(2)ﾚﾊﾞｰを操作し、遊びおよび引きしろの適否を調べる。	遊びおよび引きしろが適正であること。	○	○	○
		(3)ﾚﾊﾞｰを操作し、ﾛｯﾄﾞ、ﾘﾝｸ、軸受部および接続部のｶﾞﾀ並びに各ﾋﾟﾝのｻﾋﾞ付きの有無を調べる。	ｶﾞﾀまたはｻﾋﾞ付きがないこと。		○	○
走行装置	スプロケット	(1)亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。	○	○	○
	遊動輪	(2)走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○
	転輪	(3)取付けﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○
	支持転輪	(4)軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○

処　　置　・　調　　整	参照ページ
クラッチの切れが悪い　調整	１４
Vベルトが滑る　調整	１４
ベルトストッパー調整不良　調整	１３
ギヤ抜けする　販売店に御相談ください	－
効きが悪い　販売店に御相談ください	－
遊びが大きい　調整	１５
損傷が著しい　交換	－
不連続音、異常発熱がある 分解後不良部品　交換 またはアッセンブリー　交換	
緩みがある　増し締め 脱落箇所　取付け(購入)	
流出がある オイルシール　交換 またはアッセンブリー　交換	

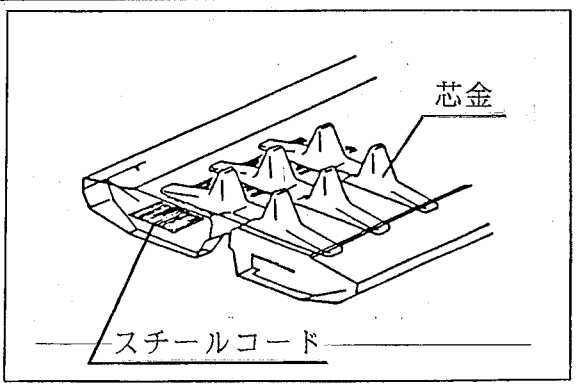


項目		検査内容		点検時期 始業	月例	年次
走行装置	クローラ	(1)ｽﾁｰﾙｺｰﾄﾞの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと	○	○	○
		(2)ｺﾞﾑの欠け、老化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、老化または摩耗がないこと。	○	○	○
		(3)芯金の脱落および折れの有無を調べる。	芯金の脱落がないこと。	○	○	○
		(4)ｸﾛｰﾗの張り具合を調べる。	緩みまたは張りすぎがないこと。	○	○	○
	クローラ張りボルト	(1)張りﾎﾞﾙﾄの亀裂、変形、腐食および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形、腐食または著しい摩耗がないこと。		○	○
	トラックフレーム	(1)亀裂、変形および損傷の有無を調べる。	亀裂、変形または損傷がないこと。		○	○
制動装置	駐車ブレーキ	(1)機械を走行させてﾌﾞﾚｰｷの効き具合の有無を調べる。	効き具合が適正であること。ること。	○	○	○
		(2)機械を無負荷状態で1／5勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○
		(3)ﾚﾊﾞｰを反復作動させて引き力および戻り具合を調べる。	引き力または戻り具合が正常であること。	○	○	○
	ﾛｯﾄﾞ、ﾘﾝｸ及びﾜｲﾔｰ類	(1)ﾛｯﾄﾞ、ﾘﾝｸおよびﾜｲﾔｰ類の損傷並びに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○
		(2)ﾌﾞﾚｰｷを反復作動させ、連結部の緩みおよびｶﾞﾀ並びに割りﾋﾟﾝの欠損の有無を調べる	連結部の緩み若しくはｶﾞﾀまたは割りﾋﾟﾝの欠損がないこと。	○	○	○
荷役装置	荷台（前ドアおよび側板を含む）	(1)荷台の上下並びに前ﾄﾞｱの開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○
		(2)ﾀﾞﾝﾌﾟ時に前ﾄﾞｱが自動的に解放し、下降時にﾛｯｸするかを調べる。	解放が滑らかで、確実にﾛｯｸできること。	○	○	○

処　　置　・　調　　整	参照ページ

スチールコード切断、芯金折れ、芯金とれの発生

交換



－

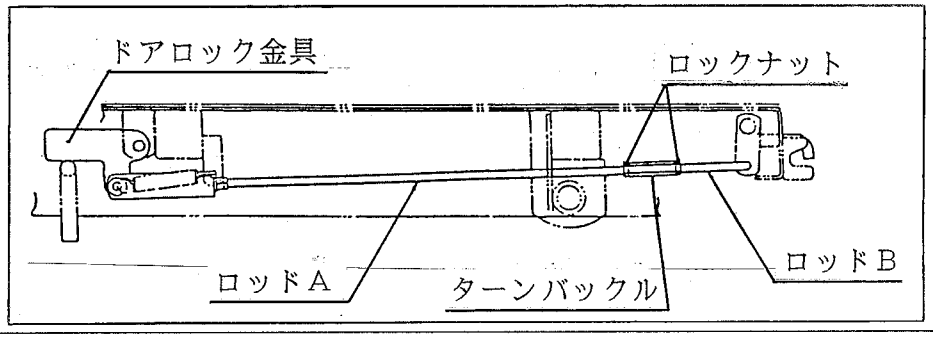
緩みまたは張り過ぎ　　調整　　１５

効きが甘い　　ブレーキ調整　　１４

損傷が著しい	交換	－
緩みがある	増し締め	
欠損がある	取付け(購入)	

ドアの開閉不良（箱型荷台のみ）　　ドアロック調整

・荷箱を降ろした状態で前ドアをロックするようターンバックルにて調整



－

項目		検査内容		検査時期 始業	月例	年次
荷役装置	荷台（前ドアおよび側板を含む）	(3)各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、著しい変形または摩耗がないこと。		○	○
		(4)取付けﾎﾞﾙﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ﾎﾞﾙﾄの緩みまたは脱落がないこと	○	○	○
		(5)荷台を上下させてﾌﾚｰﾑと荷台との取付けﾋﾟﾝおよびﾀﾞﾝﾌﾟｼﾘﾝﾀﾞｰ取付けﾋﾟﾝ等のｶﾞﾀを調べる。	各ﾋﾟﾝ部に著しいｶﾞﾀがないこと。		○	○
油圧装置	パワーパッケージ	(1)ﾊﾟｯｹｰｼﾞ本体からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○
		(2)機械を水平な場所に置き、油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○
		(3)油の汚れの有無を調べる。	油に著しい汚れがないこと。		○	○
		(4)ﾌﾞﾘｰｻﾞｰの目詰まりの有無を調べる。	目詰まりがないこと。			○
		(5)ﾌﾞﾗｹｯﾄの取付け状態の適否並びにﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	取付け状態が適正で、ﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みまたは脱落がないこと。		○	○
		(6)ﾎｰｽとの継手部並びにｼｰﾙ部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○
		(7)ﾊﾟｯｹｰｼﾞを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音および異常発熱の有無を調べる。	異常振動、異音または異常発熱がないこと。		○	○
		(8)ﾊﾟｯｹｰｼﾞに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。但し、(7)項の異常振動、異音および異常発熱の検査で異常がなければ、この検査は省略してもよい。	〔基準値内〕であること。			○

※〔　　〕内は販売店に御相談ください。

処　　置　・　調　　整	参照ページ
緩みがある　　増し締め 脱落箇所　　取付け(購入)	－

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次
油圧装置	油圧シリンダー	(1)作動状態を調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○
		(2)ｼﾘﾝﾀﾞｰを数回伸縮作動させた後、ｼｰﾙ部等からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○
		(3)ｼﾘﾝﾀﾞｰに負荷をかけて静止させ、ｼﾘﾝﾀﾞｰの伸縮量を調べる。	〔基準値内〕にあること。			○
		(4)ｼﾘﾝﾀﾞｰﾁｭｰﾌﾞおよびﾛｯﾄﾞの打こん、亀裂、曲がりおよび擦り傷の有無を調べる。	打こん、亀裂、曲がりおよび擦り傷がないこと。		○	○
	配管（油圧ホース類）	(1)油圧ﾎｰｽの亀裂、損傷、老化の有無を調べる。	亀裂、損傷、老化がないこと。	○	○	○
		(2)油圧ﾎｰｽ継手部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○
	ダンプレバー	(1)ﾚﾊﾞｰを操作してｽﾄﾛｰｸの適否およびｶﾞﾀの有無を調べる。	ｽﾄﾛｰｸが適正で著しいｶﾞﾀがないこと。	○	○	○
車体・安全装置等	車枠および車体	(1)亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または著しい変形がないこと		○	○
		(2)取付けﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。		○	○
	カバー	(1)亀裂、変形、腐食の有無を調べる。	亀裂、著しい変形、腐食がないこと		○	○
		(2)ｶﾊﾞｰの開閉状態を調べる。	開閉に異常がないこと。			○
	座席	(1)取付けﾎﾞﾙﾄおよびﾅｯﾄの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○
	表示板（マーク）	(1)構造規格に規定された表示板その他の注意・指示銘板等が損傷なく取付けられているかを調べる。	損傷なく取付けられていること。		○	○
	セーフティレバー	(1)作動、ｶﾞﾀ	ﾚﾊﾞｰに緩み、ｶﾞﾀはないか。	○	○	○

※〔　〕内は販売店に御相談ください。

	処　　置　・　調　　整	参照ページ
オイル不足	給油	１１
亀裂、損傷がある 老化が著しい	交換	１１
継手部の緩み	増し締め	１１
ガタがある	調整	－

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次
車体・安全装置等	荷台落下防止棒	(1)荷台を上げて装置の取付け状態を調べる。	緩みまたは脱落がないこと	○	○	○
		(2)曲がりおよび変形の有無を調べる。	著しい曲がりまたは変形がないこと。	○	○	○
		(3)荷台落下防止棒の取付け部の亀裂および損傷の有無を調べる。 亀裂が疑わしい場合は探傷器等で調べる。	亀裂または損傷がないこと。		○	○
	給油脂	(1)各部の給油脂状態を調べる。	給油脂が充分であること。		○	○
総合テスト		(1)走行および荷役装置の操作を行い、機能を調べる。	各装置が正常に作動し異音、異常振動または異常発熱がないこと。			○

	処置・調整	参照ページ
緩みがある 脱落 著しい曲がりまたは変形がある	増し締め 取付け(購入) 交換	−

バッテリー使用上の注意（セル付き仕様車のみ）

バッテリーは使い方によって寿命が極端に短くなったりする場合がありますので随時点検することが必要です。

（１）バッテリーの接続

・線をつなぐ場合はプラス（＋）を先につなぎマイナス（－）を後に、外す場合はマイナスを先にプラスを後で外すようにします。間違えるとショートによりバッテリーの損傷や、火災になるおそれがありますので御注意ください。

（２）長期保管する場合

・バッテリーは蒸留水を補充し充電した後、放電を防ぐため本機から外し、低温で乾燥した場所に保管してください。

・スイッチの切り忘れやエンストさせたままの放電等は、バッテリーを台無しにする原因となりますので御注意ください。

・バッテリーは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するのがバッテリーを長持ちさせる秘訣です。

（３）御使用にあたって

・バッテリー液はいつも基準線の内側にあるのが望ましく、基準線以下にならないよう随時蒸留水を補給してください。

・頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したらしばらく連続運転をしてバッテリーを充電してやるようにしてください。

格納

☆クローラ張り調整の要領でクローラの張りを緩めてください。
☆各部を点検し、不良箇所等があれば必ず整備してください。
☆各部を油のしみた布で清掃し、回転摺動部には給油して湿気の少ない場所に格納してください。
☆クローラの下に板等を敷いてください。
☆走行クラッチレバー、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にしてください。
☆エンジンについて

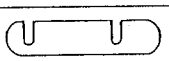
・点火プラグ取付孔よりエンジンオイルを数滴注入し、クランク軸を数回回して点火プラグを取り付け、圧縮位置で止めてください。

・気化器内へガソリンを入れたまま長期間放置するとガソリンが劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期間放置する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
また長期間放置したガソリン、ポリタンク内のガソリンはなるべく使用しないでください。

寒冷時の注意

冬期は、使用後必ず車体に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくとより効果的です）
また、凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。
（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に御注意ください）

工具袋明細

No.	部　品　名	規格・寸法	個数
1	取扱説明書		1
2	スパナ	２４	1
3	エンジン工具	エンジン付属品	1
4	カンザ		2

※『カンザ』の使用法については１４ページを御覧ください。

仕様

型式		SG603			
荷箱仕様		箱型荷台		バケット	
車体寸法 mm	全長	1870		1875	
	全幅	850		740	
	全高	1100			
履帯 mm	接地長さ	750			
	幅	200			
	中心距離	475			
荷台内寸 mm	長さ	1075		バケット容量 ㎥ 0.2	
	幅	740			
	高さ	250			
エンジン	連続定格出力	4.3～4.5PS／1800rpm			
	最大出力	6.0PS／2000rpm			
	始動方式	リコイル	セル	リコイル	セル
車体重量 kg		275	285	255	265
最大作業能力 kg		500			
最小回転半径 mm		1270			
最低地上高 mm		125			
床面高さ mm		450			
安定度 (注1)(無負荷状態)	右方向	35°			
	左方向	35°			
平均接地圧 kg/㎠		0.26			
速度 km/h	前進 1速	1.6			
	前進 2速	3.2			
	前進 3速	5.0			
	後退 1速	1.5			
	後退 2速	3.0			
クラッチ		ベルトテンション方式			
ブレーキ		内拡式ブレーキ			
ダンプの機構		油圧ダンプ方式			
ダンプの角度		55°		60°	
登坂能力(空車時)		25°			

※本仕様は改良により予告なく変更することがあります。
※（注１）無負荷状態とは空車にて静止した状態のことです。